

2018年  
千葉市議会第1回定例会  
2月20日～3月15日

# 市民ネットワーク 議会通信



## 「将来に向けて」「財布のヒモは固め」の新年度予算

一般会計 4,454 億円、特別会計 4,448 億 1,500 万円

渡辺 忍

市民ネットワークは脱・財政危機宣言の解除後初の予算案を慎重に審議した結果、財政健全化の進捗、未来への投資、福祉や教育などへの人の配置拡充などバランスの良い予算編成を評価し、賛成しました。



将来海につながるデッキが設置予定

### 魅力ある海辺に

市民も参加して策定した海辺のデザインに沿って、来年度から稲毛海浜公園リニューアルが始まります。事業費の適正規模での事業実施であるか注視しつつ、市民にとって、また千葉市を訪れる人々にとって魅力ある海辺となることを期待します。

### 財政健全化路線は継続

主要債務総額については、前年度見込みより 145 億円の削減が、また市債残高では実質 91 億円の削減が見込まれるほか、その他の財政指標も引き続き低減が見込まれるなど、次期財政健全化プラン目標達成に向けた健全化路線を進めていると評価しました。

## 予算審査から

市民ネットワークが注視する新年度の施策について討論を行いました

### 生ごみの減量化施策を着実に

学校給食残渣再資源化モデル事業が小学校 7 校で行われます。子どもたちの環境教育で、家庭での生ごみ発生抑制が期待されるとのことです。以前にも給食残渣のリサイクルモデル事業が行われていましたが、平成 23 年度に廃止されています。前回廃止した経緯をきちんと見直し、環境局と教育委員会の連携のもと、保護者や地域の協力を得ながら実施することを要望しました。



### 放課後子どもプランの行方は？

現在の子どもルーム（学童保育）は大規模化、保育の質などの問題から、健全な居場所なのか疑問です。高学年は、年齢に応じた地域での過ごし方を考える大切な時期でもあり、高学年ルームのあり方は検討が必要です。

放課後子ども教室（※）における地域ボランティア頼みの運営は限界です。総合コーディネーターによる活動支援、ルーム一体型での運営（毎日開催）がモデル実施され、今後は実施校が増える予定です。

2018年度の『(仮称)放課後こどもプラン』策定にあたっては、両事業を総合的にとらえ、管理のための居場所やプログラム重視ではなく、子どもが主体的に遊びや学びに取り組めるよう、子どもの視点に立った環境づくりを目指すことを求めました。

※学校内における地域の大人による全児童対象の居場所事業

## 市民ネットが評価した新規・拡充事業

- 保育施設の巡回指導員の増員
- 里親探しから里親支援までを包括的に推進
- 児童相談所内一時保護所の拡充
- 生活支援コーディネーター増員  
(中央区モデル実施)
- 発達障害者支援センターの職員増
- 小学校のスクールカウンセラー倍増  
(6→12人)
- グリーンツーリズムの推進
- 特別支援教育指導員・介助員の配置増員
- 歯周病・口腔がん検診の拡充
- 高齢者の低栄養防止

## 市民と議員の意見交換会

\* 詳細はお問合せください

- ◆ 4月12日(木) 13:30～15:30  
風の丘 HALL (花見川区朝日ヶ丘)
- ◆ 4月19日(木) 10:40～11:20  
高洲コミュニティセンター創作室
- ◆ 4月25日(水) 10:00～12:00  
市民ネットワークいなげ
- ◆ 5月25日(金) 10:00～12:00  
ギャラリーオアシス(都賀3-24-8)

岩崎 明子

## パリ協定に反する 石炭火力発電所は不要！

中国電力とJFEスチールが出資した千葉パワー(株)が、蘇我地区に石炭火力発電所建設を計画しています。市民団体「蘇我石炭火力発電所建設計画を考える会」のアンケートによると、今でも空気の汚れや黒い粉じんの飛散に悩む市民が大勢いるとわかりました。またCOP21で採択されたパリ協定により、CO2を大量に排出する石炭火力発電所は国際的にも削減することとされています。

今以上に空気を汚し、パリ協定に反する発電所は不要です。5月に千葉市長から県知事へ提出する意見書に、市民の声をしっかり盛り込むよう求めました。

## 学習に困難を抱える子どもを 置き去りにしないで

読む、書く、計算するなどに困難を示す子どもがいます。LD(学習障害)と呼ばれていますが、気づかれないと「勉強のできない子」と怒られたり責められたりして、自尊心を傷つけてしまうことも多いのです。現状では早期の気づきや、適切な支援が足りていません。

子どもを教室で置き去りにしないため、教職員の理解を深める取り組みを求めました。また、鳥取県「ペアレントメンター制度」のような、同じ経験のある保護者同士で悩みを共有できる仕組みの創設を要望しました。

## 議案から

### 高原千葉村の廃止が決定

老朽化による維持管理費用の増加が見込まれること、必要性の低下と利用者数の低迷から、高原千葉村を平成30年度末に廃止することが決まりました。(みなかみ町へ約2千万円で売却予定)

廃止に至った経緯を市民にわかりやすく説明し、今後1年間は思い出の場所として同窓会で訪れてもらうなど、市民への周知を要望しました。

今後、中学校の自然教室開催は別の施設で、日程を



記念に残されている  
S48年のバンガロー

1日削減して行われるとのこと。保護者に対しての丁寧な説明や、費用面の負担増にならないための配慮を求めました。(渡辺 忍)

松井 かよ子

## 子どもの事故を防ぐには？

### なぜ事故が？

動き回る小さな子どもがいると、大人は片時も目が離せません。結果、疲れたり集中力が欠けたりして「ヒヤリ」とすることが増えます。

### 予防するには？

市では子どもの事故を防ぐために、様々な部署で注意喚起をしています。乳幼児健診等で具体例を説明したり、公園の遊具の使い方をホームページで周知したり、病院では市民講座を開催したり、消防では救命講習会が行われています。

### 今後の課題は？

これらは縦割りの印象が強く、市全体として相互連携が必要です。「まとめて一度に情報が見られるようなホームページの整備・充実」「親子が日常的に利用する施設での啓発」などの取り組みを要望しました。



なごやキッズステーション  
エレベーター前の表示

## ニア中央新幹線建設現場からやってくる？ 再生土の規制強化を！

### 再生土とは？

トンネルなど、掘削工事がしやすいように薬を注入してドロドロにした土に、石灰やセメントなどの脱水固化剤を混ぜ、再度固めてリサイクル(再生)した土のことです。土地の埋立てに利用されますが、吸水力に欠けるため、大雨などで崩落する危険があります。

### 千葉市でも独自条例を！

県条例が策定されましたが、悪臭や地下水汚染等のトラブルも懸念されるため、より厳しい本市独自条例での規制強化を要望しました。



奥が再生土の山。周辺に水がたまっている(佐倉市)